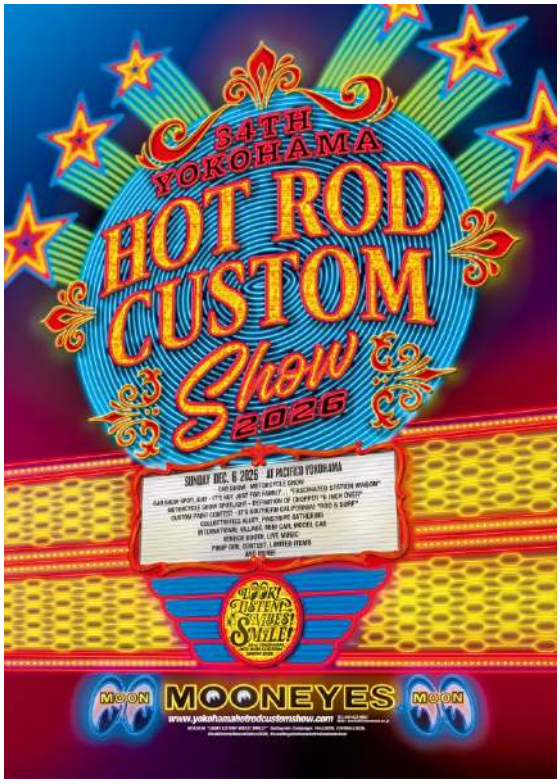
ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)
2026 年 11 月 16 日
PCI-RE2026034

# ロイヤルエンフィールド、ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2026 に出展。最新のカスタムバイクの展示のほか、限定 T シャツを販売




- **ロイヤルエンフィールドは BULLET 650 をベースにした「SATOMARI MOTORCYCLE」のカスタムバイクを初公開。「Deus Ex Machina」「Nineteen Works」「Custom Works ZON」によるカスタムマシンも展示**
- **「Royal Enfield × MOONEYES × SATOMARI MOTORCYCLE」の限定コラボ T シャツをブースにて販売**

2026 年 11 月：ミッドサイズ(250cc～750cc)モーターサイクル・セグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、2026 年 12 月 6 日（日）にパシフィコ横浜で開催される日本最大級のカスタムカーおよびカスタムバイクのイベント「34th Annual YOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOW 2026(第 34 回ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2026)」に出展。カスタムマシンを展示します。

本ショーでは、広島県尾道市を拠点に活動するカスタムファクトリー「SATOMARI MOTORCYCLE(サトマリ・モーターサイクル)」が製作する「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」ベースのカスタムバイクを世界初公開します。

またロイヤルエンフィールドの公式カスタムプログラム「Custom World(カスタム・ワールド)」では、世界各地で活躍するカスタムバイクビルダーとコラボレーションし、数多くのカスタムバイクを発表しています。そのなかから、SHOTGUN 650 および CLASSIC 650 をベースにした 2 台のカスタムバイクと、昨年のヨコハマ ホット ロッド カスタム ショーで世界初公開した、Custom Works ZON(カスタム・ワークス・ゾン)が製作したカスタムバイク「VITA(ヴィタ)」も展示します。

今年のロイヤルエンフィールド・ブースは、日本人アーティスト「Kiichi(キイチ)」とコラボレーション。ブースビジュアルを Kiichi 氏が手掛けました。そしてこのヨコハマ ホットロッド カスタム ショー2026 を皮切りに、2027 年に欧州で開催される主要なカスタムバイクショーに出展するロイヤルエンフィールド・ブースにも、同デザインモチーフにしたブースデザインを展開予定です。

## アーティスト「Kiichi」とのコラボレーション限定 T シャツ

そのロイヤルエンフィールド・ブースでは、Kiichi 氏がデザインした「ロイヤルエンフィールド × ムーンアイズ × サトマリ・モーターサイクル」のスリーネームコラボレーション T シャツを限定 80 枚販売します。そのうち 20 枚は、デザインを担当した Kiichi 氏自ら、シルクスクリーンを使った Live プリンティングを行い、販売します。






さらにロイヤルエンフィールドは、昨年に引き続き、CHEETAH CUSTOM CYCLE(チーター・カスタムサイクル)、日本のフラットトラックシーンを牽引するフラットトラック・コミュニティ「Have Fun Flat Track(ハブファン・フラットトラック)」ともコラボレーション。昨年発表したロイヤルエンフィールドのネイキッドロードスポーツモデル GRR 450(ジーアールアール・ヨンゴーマル)をベースにしたカスタムバイク「Carolina Reaper(キャロライナ・リーパー)」と GRR 450 ベースのフラットトラックマシン／FT 450 のカラーリングカスタム「Bhut jolokia(ブート・ジョロキア)」を、ホット ロッド カスタム ショー2026 翌日、12 月 7 日(月)に埼玉県川越市のオフロードビレッジで開催される、フラットトラックとヴィンテージモトクロスのイベント「HELL FUN(ヘル・ファン)」にて走らせます。※GRR 450 の日本市場への導入は、現時点では未定です

## 【開催概要】

■イベント名称：**第 34 回ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2026**
（https://yokohamahotrodcustomshow.com）
■開催日時　：2026 年 12 月 6 日（日）
■開催場所　：パシフィコ横浜
神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1（https://www.pacifico.co.jp）
■チケット　：前売り 4,950 円／当日 6,050 円(小学生以下無料)
チケット詳細（https://yokohamahotrodcustomshow.com/ticket-2026/）

## 【T シャツ 販売概要】

■販売場所：HCS2026 ロイヤルエンフィールド・ブース
■販売開始時間：12 月 6 日(日)10:00～
■サイズ：M、L、XL、2XL(ブラックボディ)
　ライブプリンティング：L、XL(ホワイトボディ)
■価格：¥6,600(税込／クレジットカードおよび QUICPay のみ)

---

■イベント名称：**HELL FUN**
（https://www.instagram.com/have_fun_flat_track_jp/）
■開催日時　：2026 年 12 月 7 日（月）
■開催場所　：オフロードビレッジ
　埼玉県川越市東本宿（http://www.westpoint.co.jp/offroadvillage/）

## 【展示予定車】

## ＜ SATOMARI MOTORCYCLE　from Japan ＞

SATOMARI MOTORCYCLE(サトマリ・モーターサイクル)は、佐藤勇作(さとうゆうさく)により 2021 年にスタートしたカスタムバイクファクトリー。佐藤氏は幼少期からモトクロスレースに参戦。全日本選手権にも参戦していました。レースに参戦していた頃から、佐藤氏の父が経営していたバイクおよびマリン製品の販売や整備を行うショップを手伝い、2007 年頃からはカスタムバイクの製作を中心とする現在の営業形態へと移行。2021 年に独立しています。昨年の『S&S ヴィンテージ・ツアー2025』に参加するなど、ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショーでは常に注目を集める存在です。

## ＜ Deus EX Machina from Australia ＞

ベースマシンは SHOTGUN 650。「Son of a Gun(サン・オブ・ア・ガン)」と名付けられたこの車両は、オーストラリアを拠点に世界中でファッションとバイク、サーフィンやスノー、アートを展開する Deus EX Machina(デウス・エクス・マキナ)との特別なコラボレーションにより誕生しました。11 月にイタリア・ミラノで開催された EICMA2026 で発表したばかりの車両とともに、オーストラリア・シドニーの Deus EX Machina ガレージで車両を製作するカスタムバイクビルダー／Jeremy Tagand(ジェレミー・タガン)が横浜にやってきます。ロイヤルエンフィールドは 2027 年、この「Son of a Gun」をモチーフとした世界 100 台の限定モデルを販売する予定です。



## ＜ Nineteen Works from Netherlands ＞

ベースマシンは CLASSIC 650。オランダを拠点に活動するカスタムファクトリー「Nineteen Works(ナインティーン・ワークス)」が製作しました。カスタムバイクビルダーの Wilco Lindner(ウィルコ・リンドナー)は、米国のカスタムパーツブランド／Roland Sands Design(ローランド・サンズ・デザイン)が主催したカスタムコンテスト『Dream Build Off(ドリーム・ビルド・オフ)』の 750 クラスを制し、一躍カスタムバイクシーンの表舞台に躍り出ました。「Animus One(アニムス・ワン)」と名付けられたこの車両は、フレームやガーダー式フロントフォーク、そして低くセットされた外装類など、ほぼすべてのコンポーネンツを Wilco 自身がハンドメイドしています。



## ＜ Custom Works ZON from Japan ＞

ベースマシンは CLASSIC 650。「VITA(ヴィタ)」と名付け、昨年のヨコハマ ホットロッド カスタム ショーで世界初公開したカスタムバイクです。車両を製作したのは滋賀県を拠点に活動する Custom Works ZON(カスタム・ワークス・ゾン)。最大の特徴は、CLASSIC 650 の排気量 648cc 空冷 4 ストローク並列 2 気筒 SOHC4 バルブエンジンを 2 基搭載していること。前側エンジンのミッションを取外し、クランクケースを短く加工。前後 2 つのエンジンを、エンジン左側に配置したプライマリーチェーンによって連結しています。そのエンジンは、独自に設計したハードテール・フレームに搭載。フロントには独自に設計したクラシカルなスタイルのガーダーフォークを、26 インチというモダンな大径ホイールをセット。モダンとクラシックの融合を果たしています。外装にはマホガニー材を使用。それとリンクする外装類は塗装を廃し、アルミの地肌と木目が美しくリンクしています。



## 【コラボレーションアーティスト】

### ＜ Kiichi from Japan ＞

Kiichi(キイチ)。日本を拠点に国内外で活動するアーティストです。モーターサイクルカルチャーを創作の原点とし、ドローイングやグラフィックを中心に独自の世界観を構築。モーターサイクルそのものの造形にとどまらず、そこに息づく文化や人々の価値観を題材に、平面から立体まで多様な表現を展開しています。

Website：https://www.whitetee-blackbike.com/?mode=f1

Instagram：@kiichi_moto



＜ロイヤルエンフィールドについて＞

1901 年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955 年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling／ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」、「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル）」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル）」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル）」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル）」、アイコニックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアン クラシック・サンゴーマル）」「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル）」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル）」があります。また我々は 2024 年に、新しいシティ＆電動モーターサイクルブランド『FLYNG FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年 11 月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に 2000 以上の店舗を構え、世界 60 カ国以上に 850 近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランティングソープとインドのチェンナイに 2 つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに 2 つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの 6 ヶ所に近代的な CKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。
https://www.royalenfield.co.jp

全国の ROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。
https://www.royalenfield.co.jp/dealers/

本件に関するお問い合わせ先
ロイヤルエンフィールド総輸入発売元：VT ホールディングスグループ・ピーシーアイ株式会社
https://www.royalenfield.co.jp